

オスプレイ配備許すな！ 普天間基地 「負担軽減」に逆行

2012年から普天間基地へ新型輸送機オスプレイを配備する計画を米海兵隊が公表しました。（「2011会計年度の航空機配備計画」）

これまで日本政府は、オスプレイの配備計画を96年にアメリカ側から告げられていたにもかかわらず、沖縄県民の反発を恐れひた隠しにしてきました。このMV22オスプレイとは、海兵隊の使用する垂直離着陸機のこと、現在配備されているCH46



MV22 オスプレイ

ヘリコプターの代替機です。

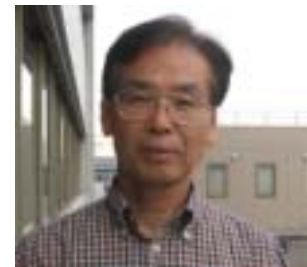
オスプレイはタカ科の海鳥ミサゴの意味で、短距離で離陸、飛行中は固定翼プロペラ機のように飛べ、垂直着陸が可能。速度はヘリの2倍、航続距離も大幅に伸び、搭載能力も格段にアップ、殴り込み部隊＝海兵隊の戦力増強機材です。すでにイラクやアフガニスタンでは使用されています。これまで自公政権は、なぜひた隠しにしてきたかといえば、オスプレイは騒音が大きいうえ、構造が不安定なため墜落事故が相次ぎ、今年まで34人が死亡、「未亡人製造機」の異名をとってきました。

民主党政権は、辺野古への新基地建設の進捗状況にも拘わらず12年からのオスプレイの配備を容認、強行する構えです。那覇市議会では9月30日反対意見書を可決、不安が大きく広がろうとしています。住宅地が隣接する普天間のみならず、もし墜落事故が発生すれば付近住民を巻き込む大事故となる可能性があります。これらは11月に行われる注目の沖縄知事選の大きな論点となるものとみられます。

茎崎平和の会発行「ピースウイングvol.13」よりオスプレイの記述部分を転載しました。

『代表理事・常任理事はこんな人』

第五回目は、事務局長・木村泉さんです。



今年6月の大会で県平和委員会事務局長に選任されました。

潮来高校在職時の89年、茨高教組の専従となり、安保破棄諸要求実行委の事務局長を務めました。当時は全労連結成（教育は全教）の最終局面でした。前事務局長の伊達さんが、茨城労連結成に向け統一労組懇で頑張っており、その頃からお世話になっています。

現在、鹿行労連議長、鹿嶋九条の会代表です。週の5日間は臨時教員。土・日曜は一反農業に励むかたわら、梅干しや味噌、ゆべし作りや、様々な酒を醸（かも）しています。まだまだ未熟ですので、叱咤激励をお願いします。



歓迎！新入会員のみなさんです よろしくお願ひします。

- 谷村 裕さん（潮来市）
- 美野輪 智博さん（水戸市）
- 井上 一男さん（つくばみらい市）
- 飯田 健夫さん（笠間市）
- 金子 直美さん（水戸市）

各平和の会（平和委員会）のみなさん一人一人の力で月5名の仲間づくりを実現いたしましょう。

沖縄の叫び、聞こえますか？ 65年間の基地の苦しみと怒り

各平和の会では、大いに学び・運動を前進させよう！

10年度日本平和大会学習パンフを活用しよう。

どうする？ 米軍普天間基地と日米安保条約

発行／2010年日本平和大会実行委員会（頒価250円）

【内容】

- 沖縄の叫び、聞こえますか？
- 米軍普天間基地の撤去、新基地ノー
――これが沖縄県民の答えです――
- 海兵隊は日本を守る「抑止力」？
- 米軍基地はアジアの平和に必要？
- アメリカにおくより安上がり
- 「日本国民」でなく「米軍」を守る

- 憲法と安保どっちが大事？
- 「日米同盟の深化」ってなに？
- 消費税増税ではなく、この軍事費の削減を！
- 軍事同盟も米軍基地もノー！！
- アジアの平和は日米安保なくしてこそ
- 全国でわき起こる米軍基地ノーの声
- 「佐世保」から見えてくるいまと未来

・沖縄知事選の支援と連帯のため、ぜひパンフレットの学習と普及を宜しくお願ひします。

・各平和の会では、必要部数の申し込みを県平和委員会までお願ひします。

平和新聞 2010年10月25日(月曜日)
1939号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 577
2010.10/25

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

変るオキナワ

= 軍用地主 その3 =



「基地がなくなって、沖縄は変わった」こんな実感が沖縄県民に広がっているように思われる。軍用地が投機の対象になり金儲けの手段になったり、本土復帰以来13兆円にも及ぶ国費をつぎ込んだ開発事業は、自民党・企業・誘致派の癒着を生み出し利権構造がつくられ、多くの県民から批判されている。

10月20日の朝日新聞は名護市民の急激な変化を次のように報道している。

「辺野古近くの集落にできた食堂・売店施設で、建築費は4億円。工事の大部分を受注したのは（基地容認の）前市長の後援会幹部でもある土建業者で・・・結局おいしい思いをしているのは一部の連中だ。もう好き勝手させない。・・・名護市には基地関連で400億円以上の振興費が入った。だが失業率は一向に改善せず、商店街は寂れる一方。・・・基地容認派市長を守るために金を出し続ける政府と、公共事業のため票を集める業者がもたれ合う構図。」今年1月の市長選そして、9月市議員選挙でこれまで基地容認派の市長及び議員が落選したのはこのような市民の批判が強くはたらいたと。正しい一面の指摘だと思う。（8億円をかけた公民館も作られた。ちなみに辺野古のある久志地区の人口は5000人弱である）

基地返還後のまちづくり

基地返還に伴う跡地利用で成功している北谷町（ちゃたんまち）。1981年に米軍ヘリ部隊のハンビー飛行場（43町歩）とメイモスカラー射撃訓練場（23町歩）が返還された。後者の特徴を『沖縄論』から拾って紹介してみたい。

・北谷町は行政と議会そして北谷町軍用地等地主会が復帰直後から結束して跡地利用のまちづくりの具体的方策を追求してきた。そして、跡地の背後の海浜を49町歩埋め立て都市型観光リゾートと商業施設の複合開発の構想とした。

（参加企業と町が共通の認識を持って美浜アメリカンビレッジ開発となった。）

・行政は1次から3次にわたり米軍基地の閉塞状況の脱却を図る振興計画をつくり、海浜埋め立て事業や企業誘致（県内企業優先）のために奔走した。

・地主会は自ら開発手法を調査しまちづくりの企画を町に提案し協議を進めた。

地主ひとり一人の意見を尊重し重大事項は総会で同意を得るという民主的な運営によって、緑化協定・景観協定・建築協定などが制定をされた。風俗営業、パチンコ店・勝馬投票券発売所などを規制し良好な環境を整備した。

・北谷町の地主会の特徴は軍用地料の管理だけでなく会員への独自の融資制度を持ち学費や進学のための役立たせて、相互の信頼関係を作り上げている。また、軍用地の売買は地主個人の意思だけでなく親族や地主会の合意を必要とし不動産や外部資本の介入を厳しく制限している。

・跡地利用の結果はそれまでの基地関連収入1億6千万円、町への税収は年間192万円であったが、返還後は、税収が年間3億7千万円、商品販売額は295億円、雇用は100倍、経済波及効果は17倍となって、北谷町の人々も驚くほどに「変わった」。

・那覇市新都市地区の跡地利用も今は高級住宅街、商業都市として基地時代とは全く変わり発展している。（伊達）



沖縄ツアー 感想

沖縄知事選にのぞむ熱い決意！

美和・緒川平和の会 ・ 堀江 鶴治

一度は行って、沖縄の実態をこの目で見聞きたい。常日頃からの願いが叶って、茨城県平和委員会の企画された沖縄基地視察ツアーに8月24日から27日までの4日間参加することができました。一生のよい思い出になると有難く感謝しております。

第一日目、ホテル近くの船員会館で、前泊博盛氏（沖縄新報社論説委員長）から基地問題を中心とした講演がありました。前泊氏は、【1】現状分析～「もっと知りたい！本当の沖縄」など5つの柱から話されました。記憶に残ったのは、基地返還によって沖縄の経済は破綻するどころか、大きな発展が期待されることですとのお話です。例えばそれは、那覇新都心（牧港住宅地区）では基地変換後、雇用36倍（196人→7168人）、税収19倍、経済効果14倍、生産誘発額16倍、直接経済効果15倍となっているとのことでした。世論の一部には「基地がなくなると、住民の働く場がなくなるのでは？」などという議論があるようですが、この一例を見ただけでも、根拠のない議論が明確であると自信を深めることができ、すっきりしました。

恒例＊ワイン販売＊

クリスマスには本場のワインで！

――国産ワインコンテストで金賞受ける――

北は八ヶ岳連峰、南は南アルプスそして、富士川の支流、釜無川と笛吹川に囲まれた甲府盆地。そこで育まれる甲州ぶどうで造られた勝沼ワイン。私たちが20年以上も取引している(株)勝沼醸造は地元農民連と提携し、日本農業を守る立場で経営しています。また、昨年度、国産ワインコンテストで金賞を受賞したことはいかに熟練の技と丁寧に作っているかの証です。

★2010年産のブドウで醸造されたヌーボー「アルガーノ甲州(白)2010」と「アルガーノベリーA(赤)2010」の2種類
★お値段は、1本1500円（地元還元金100円）
★締め切りは、11月末。お届けは、12月初旬。
★昨年以上のお願いが出来れば幸甚に存じます。

第二日目、嘉数（かかず）高台から世界で一番危険な普天間基地を見ました。土地を強制的に取り上げられた住民が、基地のすぐそばにまで住まざるを得ない状況や、危険を目の前にした日常生活を続けなければならない実態を見、怒りを覚えずにいられませんでした。10時から宜野湾市役所で、イハ（伊波）市長への表敬訪問をしました。（伊波市長は11月に行われる沖縄県知事選挙に立候補を表明され、すでに激しい選挙戦に入っている状況です。）市長は、終始にこやかで、アメリカの普天間基地で、騒音や事件・事故が度々起こっている実態を生々しく報告・説明していただきました。私は一目見た瞬間、圧倒されるような思いがしました。

「この11月に行われる知事選で勝利を収めて、沖縄の県民の切なる声・思いをキチンと日米政府に伝えて、基地返還を勝ち取りたい、米軍基地の重しを取り除くことが沖縄の発展にとってどうしても必要です。全国のみなさんの応援を得ながらやっていきたいと思っています。」と終始静かな口調で語られた姿が強く印象に残りました。来るべき知事選でとおくからではありますが、何としても今回の歴史的な政治戦に勝利を収められるよう、できるだけの支援をしていきたいと強く感じました。